

キルギス政治・経済レポート

新キルギス NOW

(第6号 : 2012年3月~4月期)

*本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

【政治】

議会

新大統領、最初の100日間の評価

アタンバエフ大統領が就任してから100日が経ちました。キルギスの国民は、どのように最初の100日の評価したのでしょうか。外交では、大方の予想に反して、トルコを最初の公式訪問国とし、トルコとの関係強化に成功しましたが、一方で、戦略的パートナーであるロシアの公式訪問では、評価を落としてしまいました。今までのところ、特筆すべき点は見当たりませんが、キルギスの有権者たちは、社会民主党 (SDPK) のリーダーが、前の更迭された2人の大統領のやり方や手段を捨てようとしないうちに、失望を感じているようです。汚職に対する本格的戦いは、すぐにポピュリスティックな形に変わり、中堅クラス公務員と民間企業家の逮捕に関する「反汚職サービス報告書」は、裁判で骨抜きになりました。隣国・外国からの要人との会談は、いつも同じで、ゲストからの大統領選挙勝利に対する賛辞、大統領からのキルギス支援に対する感謝、そして投資の話の三点です。地方との関係改善が進んでいないことも気になります。アタンバエフ大統領は、キルギスのリーダーとして最初の一步を踏み出しました。それは、非常に厳しいものですが、キルギス国民の新大統領に対する期待が大きいくだけに、国民に苛立ちを募らせているようです。

キルギス地方議会選挙終了

3月4日、キルギス南部の都市オシュなど3市、13地区で、地方議会選挙が行われました。キルギス第2の商業都市オシュでは、メリス・ムルザクマトフ氏の率いる党 (民族の団結) が、予想通り47%の得票率で、市議会議席の約半分を獲得しました。アタンバエフ大統領の社会民主党 (SDPK) は、24%で第2位でした。ムルザクマトフ氏は、更迭されたバキエフ前大統領に指名され市長となった人物で、オトゥンバエヴァ前大統領とは、地方自治や安全問題で対立し、しばし

ば彼女の指令を無視するなどありましたが、アタンバエフ大統領は、国家統一運動のキャンペーンなどで、この市長と協力していくことを約束しています。専門家には、アタンバエフ大統領の忍耐が功を奏して、これからは南部と調和や協力関係ができるだろうと予想する人もいます。

外交

ビシュケクとモスクワの緊張、高まる

昨年、アタンバエフ大統領が、キルギスのマナス米軍基地を閉鎖すると発言したとき、誰もが、アタンバエフ大統領の親ロシア政策を疑いませんでした。しかし、最近のビシュケクとモスクワの緊張の高まりは何を示唆しているのでしょうか。アタンバエフ大統領は、ロシアを含め、キルギス領内に、一切の外国の支配や基地を望まないと主張しています。2009年、当時のバキエフ大統領に、ロシアは、米軍をマナス空港から追いだす代わりに、3億ドルの援助（グラント）と20億ドルの投資支出パッケージをオファーしました。そして、同時にロシアは、1億9,800万ドルの債権放棄の一部として、ダスタン社（キルギスの魚雷製造会社）の48%株式を取得するという契約をしました。しかし、最近、ロシアが、工場施設の老朽化などを理由に、75%株式取得を要求してきた際、アタンバエフ大統領は、これを拒否しました。彼は、ダスタン取引を断り、さらに、ロシアがカント空軍基地から撤退することを希望しています。アタンバエフ大統領は、自らのカードを見せていません。彼は、振り子のように前後に揺れますが、実は、対外関係の交渉に必要な独立した有利な場所を模索しているようにも見えます。バキエフ体制時代よりも新しいリーダーと、より良い関係を作ろうとしていたモスクワを慎重にさせています。

【経済】

貿易経済関係の発展

2012年第1四半期 GDP は、-6.8%、インフレ率+2.4%

キルギス最大の金鉱採掘会社クムトール社が、2月の労働ストライキの影響から、生産高を大幅に減らしたことや厳冬による影響から、キルギスの今年第1四半期 GDP 成長率は、-6.8%という結果になりました。国家統計委員会によれば、その他のセクターでも生産の落ち込みがあり、鉱業セクターでの落ち込みが-3.7%に対して、工業生産高全体で、-27.7%の下落でした。これに関連して、経済・独占禁止政策省のサリエフ大臣は、「センテラ・ゴールド社（クムトールのカナダ親会社）には、大変困っている。我々が、国家予算を計画した時、昨年並みの伸び率を想定して計算していた」と述べ、クムトール社の業績不振が、国家財政に大きな影響を与える懸念を表明しました。クムトール社は、2011年のキルギス GDP の11.7%を計上しています。政府は、キル

ギスの経済が、クムトールに偏重している状況を、再認識したようです。一方、キルギス国立銀行が発表した第1四半期のインフレ率は、+0.9%で、年率2.4%（2011年3月～2012年3月）となり、チョコウエフ副総裁は、「中央銀行の2012年度目標9%内にあり、満足な結果となった」とコメントしました。しかし、足元では例年にない厳冬から食肉価格などの食料品価格の高騰の兆候が見られます。

キルギス経済を支える外国企業と国内小規模企業

民間調査機関の報告によると、外国企業のシェアが、キルギスの工業生産高の3分の1以上を占め、7万2,000人を雇用しています。外国資本の企業数は、2,721社で、その約半分1,350社は、海外から100%出資で設立されています。これらの外国企業は、主に、商業や自動車関連サービス、不動産会社などです。国別では、ロシアからの544社を筆頭に、カザフ397社、中国377社、トルコ330社、ドイツと米国がそれぞれ98社となっています。一方、キルギスGDPの38%は、小規模企業から産みだされています。これらは、軽工業や繊維産業で、30万人の雇用を行い、その他の小規模企業で、5万3,000人を雇用しています。キルギスには、20万4,000人の起業家と1万1,400の小規模企業が活動しています。キルギスは、1991年ソ連崩壊後、原材料へのアクセスが極度に落ち込んだ結果、産業発展が停止しています。

投資政策・金融市場

不動産価格インデックス

国家登記サービスは、2012年3月1日現在の各地区の不動産価格インデックスを発表しました。

地域	タイプ	平均価格(ソム/1平方メートル) (1ソム約1.8円)
ビシュケク	事務所	300,679
	アパート	38,043
	住宅	29,914
	店舗	33,192
	工場	45,668
オシュ	社会施設	9,847
	アパート	17,146
	住宅	7,579

	店舗	23,321
	工場	2,516

鉱業セクター

鉱山ライセンスと新たな「下層土法」の行方

経済・独占禁止政策省のサリエフ大臣は、キルギスの鉱山会社の数を半分に減らして、真剣にこの分野への投資を考えている投資家を誘致するべきであると主張しています。現在、800以上の鉱山会社がありますが、これを300～400社に削減して、投資を望み、収益を稼ぐ会社だけを残すべきであるというのです。鉱業部門は、キルギスGDPの10%のシェアを占めています。また、地質・鉱物資源庁のタシバエフ責任者は、中国の鉱山企業が、怪しげな仲介者を使って、ライセンスを取得していることに関連して、「今後、仲介者を通じたライセンス発行はしない。基本的な手順を変更して、新規ライセンスは、入札を通じてのみ発行される。また、入札に関する情報は、オンラインで掲示される」と述べました。ライセンス手続きの改善については、従来から投資家からの強い要望がありました。カナダ企業は、最近、ライセンス取得や探鉱および環境使用に関する条件の保護の改善を求める共同声明を出しています。キルギス政府は、鉱業分野における規制慣行を、早急に改善する必要があります。現在、政府が検討している下層土のライセンス発行手続きと下層土使用の新しい規制に関する法案では、ライセンス発行での汚職根絶、投資誘致の改善、および仲介の連鎖排除などを目指すものとなるようです。

石油精製所の建設

地質・鉱物資源庁のタシバエフ責任者は、キルギスの炭化水素資源探掘開発で、アゼルバイジャン国営石油会社（SOCAR）から支援を受けることに意欲を示しています。SOCARは、すでに今年1月、毎年220万トンの原油を処理する石油精製所を、キルギスに建設すると発表しています。今回は、さらにキルギスの12油田に埋蔵する原油1億1,190万トンについての石油・ガス開発協力について協議を行なうというものです。キルギスは、中央アジアでは、小さなプレーヤーですが、原油開発は、一部を輸出できるという点からも、期待されています。SOCARは、陸上や海上の石油・ガスの探査や石油製品の精製や販売などに力があり、石油・ガスの海上や陸上輸送事業も行っています。また、SOCARに続いて、中国企業が、キルギス北部のチュイ州に石油精製所の建設を行うことに合意しました。投資額は、5,000万ドルで、プラントは、トクモクのチュイ市

に建設されます。プラントの年間生産能力は、500トンで、工事は、2012年第2四半期から開始される予定です。

農業セクター

止まらぬキルギスの農業生産衰退

農業省アドバイザーのボルバシェフ氏は、キルギスのGDPに占める農業部門のシェアは、1996年の45%から、2010年には18%と減少傾向に歯止めがかからないことを憂慮しています。しかし、就業人口に占める農業人口は、65%程度維持しています。今や、キルギスの肉、卵、羊毛の生産は、独立以前の1991年レベルまで落ちてしまいました。ソ連時代の工場も、研究施設もすべて崩壊してしまいました。政府の、農業分野開発計画は、繁殖施設の建設、セクター内の生産レベル向上、輸出振興などですが、国の支援が成功の不可欠の要素となっています。

モンゴルの農業分野への協力関係強化に期待が高まる

4月、モンゴル大統領をはじめモンゴルからの代表団が、キルギスを訪問しました。モンゴルの農業省大臣は、キルギスで山羊の繁殖産業を促進するために、10万頭のカシミア山羊を提供することを約束しました。キルギス南部のバトケン地方の自然環境が、山羊を育成するのに適しているようです。モンゴルは、カシミア山羊の育成で、世界でも数少ない国の一つです。大臣は、さらに、果物や野菜作物、灌漑施設、共同生産組織およびメリノ羊の畜産などにも関心があると述べました。モンゴルは、農業のGDPに占めるシェアが43%、労働人口の65%が農業部門に従事しています。モンゴルとキルギスの農業部門における協力関係強化に期待が高まっています。

厳冬で、畜産農家に大きな被害

今年の厳しい冬で、キルギス南部の農家を中心に、餌不足から、約4万頭の家畜が餓死、さらに餌を確保できず、1万4,000頭を処分しました。農民にとって、今年は、1968年以来の厳しい冬となりました。通常、冬の厳しい期間は、2～3か月ですが、今年は、10月初めから雪が降り始め、4月まで続いたため、家畜の飼料が足らなくなったということです。政府は、飼料確保に予算を計上、北部チュイ州から調達しようとしたが、北部の農家も、同じように飼料を使い果たしていました。飼料価格は、すでに通常の3倍近くとなっており、政府は、カザフスタンの業者に依頼していますが、政府の対応の遅さに、農民の不満が高まっています。しかし、独立以来、キルギスの農業セクターに対する政府からの支援もなく、家畜飼料となる草原の破壊（過放牧、エロージョン）が深刻で、草原の復元による家畜の安定生産は重要課題でした。キルギスの牧畜は、平地と山岳地との間を移動する「季節移動型放牧」で、春・秋季に低地（700～800m）、夏季

は高原(3,000m～3,500m)、冬季にはさらに高地(3,500m～4,000m)の自然草種を求めて移動します。季節移動型放牧では、飼育頭数に見合う各季節の放牧地が国内では十分に確保されないため、カザフ、ウズベクなど近隣諸国と季節的に放牧地の賃借契約を相互に結び、年間を通じて放牧地を効率的に利用する方法がとられています。

金融セクター

マレーシア、保険・金融分野へ

マレーシア中央銀行は、キルギスにイスラム方式の保険会社開設を検討しています。保険会社は、キルギス国立銀行と合弁で設立して、長期的には、CISのすべての国に事務所を設けたいとしています。しかし、キルギス国立銀行は、イスラム金融の原則を導入することに歓迎を表する一方、法律上、国立銀行(キルギスの中央銀行)に、いかなる種類の企業の出資や共同設立者となる権限がないことを強調、金融アドバイザーとして助言できると応答しました。マレーシア・ネガラ銀行は、イスラム金融の手法について、キルギス国立銀行の職員を訓練する用意があると付け加えました。

観光セクター

中期観光計画「アジアのハート」

ババノフ首相は、「今までは、国の中にある多くの潜在的観光資源を置き去りにして、イシククルなどの人気のある山や湖に焦点をあててきたが、キルギスには、歴史的な、あるいは神聖な場所もたくさんある。今後10年間は、観光セクターに力を入れていく」と議会で、新しい政府の観光計画を説明しました。また、国民のマナー改善のため、罰金や懲役刑を科すことも検討されているようで、新たな国の観光計画は、キルギス国民にマナー改善を要求することになりそうです。首相は、「先進国では、ゴミを捨てる人に、責任を課している。たとえば、ゴミの投げ捨てに500ドルの罰金や3～7日の入獄などである。我々も、このような方法を検討する必要がある」、そして「キルギスは、アジアのハートというタイトルに相応しい国であり、またそうなるべきである」と述べました。

エネルギーセクター

ロシア、中国のキルギス水力発電開発への投資

ロシアのエネルギー当局は、キルギスに投資する新しい水力発電所の75%の所有権を取得すると発表しました。当初の政府間協定では、ロシアの所有権は、投資の50%でした。モスクワは、キルギスに新規水力発電所建設資金20億ドルを投資する計画をしています。一方、キルギス政府

は、中国の投資家にもプロジェクトを誘致しようとしています。急拡大する中国企業は、新しい中央アジアのエネルギー源を探しています。したがって、隣国キルギスのエネルギー投資機会に飛びつくと期待しているようです。モスクワは、アタンバエフ大統領が、経済開発で中国に接近した場合、再考を余儀なくされるかもしれません。ロシアと中国は、中央アジアの資源競争で揺れ動いています。

キルギスの独立系石油業者、ガスプロムに警戒

キルギス政府とロシアエネルギー省の間で検討されている契約が、ガスプロム社にキルギスの石油産業に関する優越的地位を与えるとして、国内石油業者らが反発しています。キルギス議会では、石油製品の販売と輸出に関する特権をガスプロムの子会社に与えることができる法案を審議しています。23の独立系石油業者は、「これは、不透明で腐敗を醸成するものだ」とする声明を政府と議会に提出しました。「契約は、キルギス企業を差別し、キルギス石油産業の完全な独占の条件を作り出すものであり、WTOルールに違反し、またキルギスの法律にも反している」と批判しました。ガスプロムの子会社は、現在、キルギスへの石油輸出の約60%を扱っており、残りの40%を、独立系石油業者が扱っています。

ガスプロム、キルギスガス社の75%株式取得へ

ロシアの石油大手ガスプロム社は、今年末までに、キルギス国営会社キルギスガス社の株式を取得し、キルギスのガス田の開発や輸出事業を行うと発表しました。このロシアとキルギスのエネルギー企業は、8月か9月の調印を目指して契約の交渉を続けています。キルギス政府は、キルギスガス社の75%プラス1株の売却を目指しています。キルギス政府は、現在、同社の82%株式を所有、デロイト（国際会計事務所）は、これを約2,000万ドルと評価しています。ガスプロム社は、さらに。会社の再編と近代化のために、今後5年～6年間で5億ドルの投資と、2015年に、東クガルトとマイル・スウのガス田から天然ガス生産を開始する交渉を行っていることを明らかにしました。

運輸・交通セクター

中国の鉄道建設に関する融資条件

キルギス政府は、ウズベク・キルギス・中国鉄道の工事に関する融資条件を、中国と交渉していますが、オトルバエフ副首相は、「（以前から検討してきた）キルギスの天然資源を担保に、工事の融資を受けることはない。コンセション方式で鉄道を運営する事業計画を交渉している」と発言しています。このプロジェクトの資金調達には、以前よりキルギスの4つの鉱床を中国側

に譲渡するという案が検討されてきました。専門家は、工事費 20 億ドル以上、総距離 166 マイルの中国・キルギス・ウズベク鉄道が、山岳国家キルギスに、中国の港へのアクセスを可能にし、年間 2 億ドルの輸送収入、さらに、建設工事で 2 万人の雇用を生み、鉄道の運営で、2,700 人の新規雇用を生み出すと予想しています。しかし、一方で、「過去の例から、中国の融資では、通常、中国人労働者が雇用され、キルギスに雇用機会のチャンスはないだろう。また、キルギスが工事に重要な働きをしていなければ、鉄道事業から生まれる収益にもありつけないのでは」と見ている専門家もいます。アタンバエフ大統領は、「我々には、鉄道が必要であるが、このような方法ではない」と天然資源と建設融資の交換取引には反対です。中国路桥工程有限责任公司 (Chinese Road and Bridge Corporation、CRBC) は、ババノフ首相との会談で、プロジェクトのフィジビリティ分析を行うことを約束しました。運輸・通信省と CRBC は、覚書を締結する予定です。

執筆者略歴

熊切一郎：1976 年一橋大学経済部卒、同年三菱信託銀行入社、香港、ロンドン、シンガポール勤務、主に国際金融開発、国際投融资業務を担当、2005 年三菱 UFJ 投信、2010 年 9 月より独立行政法人国際協力機構シニアボランティアでキルギス共和国大統領府が設立した Public-Private Partnership and Investment Promotion Center で 投資アドバイザーとして活動中。